尾瀬

第23号

尾瀬の自然を守る会

結成十周年記念行事終る

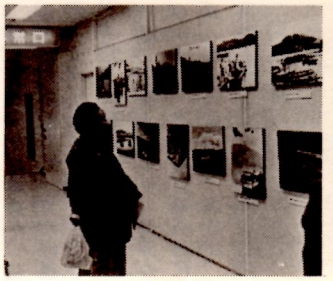
昭和四十六年結成以来、今年で満十年を迎えた本会は、去る十月十二日㈫より十七日㈰まで、群馬県高崎市にある高島屋デパートにおいて、十周年記念事業「尾瀬今昔」写真展を開催するとともに、同市労使会館において「尾瀬の夕べ」を行った。

この写真展は、本会の結成十周年を記念するとともに、より多くの方々に尾瀬の真の姿を知ってもらおう、そして、今後尾瀬はどのようにしてゆかねばならないかを考えとゆく一つの糧にしよう、との趣旨で、昭和五十五年冬から準備を推めてきたものです。途中、写真の集り具合の停滞や、資金面での危機、会場の問題で紆余曲折・座折を繰り返しつつも、五十六年十一月、高崎市における開催にこぎつけたものです。

最終的に集った、尾瀬の歴史を語る写真は約二百枚程でした。これに現在の尾瀬、本会発足当時のものを加え、計百余点を出品しました。中には、古いにもかかわらず非常に鮮明で、今写したばかりといったものもあり、まずは成功だったようです。

入場者も、群馬支部の方々の努力によって、六日間で計四千余人と、まずまずの入りでした。中には、出品した写真を見て、知り合いを見つけたり、その当時の思い出にふけったりしている方々も居ました。これを期に、尾瀬に関心のあった方々の積極的な活動が始り、関心のなかった人にあっては認識が深まれば、と切に願うものです。

また、今後沼田市内においても是非写真展をという声もありました。希望としては、近いうちに東京において開催したい、という考えをもっております。その切には、会員諸氏、特に東京近郊にお住いの方々の御協力をお願い申し上げます。



一方、写真展期間二日目の十一月十三日㈮には、尾瀬の夕べが行われ、約二百人の方々の参加がありました。中村芳男初代全国自然保護連合理事長の「自然の中で考える」と題する講演のあと、東武興業KK監査の内藤實氏の、三十年前に撮影された「奥鬼怒～尾瀬～会津駒」の2本のカラー映画の映写があり、好評を博しました。

そして、十一月十七日㈫午後三時、無事写真展の幕を閉じ、十周年記念事業の全日程を終了いたしました。写真展ならびに尾瀬の夕べに御協力いただいた方々に心より深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

なお、尾瀬およびその周辺の古い写真は、資料集収という会活動の一貫として今後も続けてゆきたいと考えております。古い写真・資料をお持ちの方、今後とも御協力の程よろしくお願いいたします。

尾瀬の自然を守る会総会報告

写真展期間中第二日目の十一月十三日㈮、「尾瀬の夕べ」に先だって、本会の総会が開かれました。連絡が遅い、場所が悪いとの御批を受け、事務局・幹事一同今後の反省材料とさせていただきたいと思います。

席上以下のことが決定せられましたので御報告いたします。

一、記念事業の趣旨説明
　○「尾瀬今昔」写真展
　○尾瀬の夕べ
一、本年度の行事報告
　○環境週間（六月）

尾瀬の自然を守る会昭和57年行事予定表

1月10日（日）昭和57年度第一回例会兼新年会
2月　探鳥会（於：群馬）
3～4月頃　尾瀬今昔写真展（於：東京）
5月　尾瀬今昔写真展（於：群馬県沼田市）
6月上旬　ゴミ持ち帰り運動（於：沼田駅頭他）
7月　至仏山観察会（対象一般）
同月下旬　尾瀬団体指導（指導員の方はスケジュールを空けておいて下さい）
8月中旬　第5回尾瀬自然保護指導員養成講座
9月　小渕沢ー尾瀬沼自然観察会（対象一般）
10～11月　指導員研修会（対象指導員及び一般）
例会　東京：原則として毎月第1金曜日　於：1～3月は東京農業大学第一高校生物教室　以後未定
群馬支部：原則として毎月第3日曜日　於：前橋中央公民館　午後2時～5時

○奥鬼怒スーパー林道現地調査（七月）
○笠ヶ岳現地調査（九月）
○団体指導（七月～八月）
○第四回尾瀬自然保護指導員養成講座（八月）
○自然観察会（五月・七月）

一、会計報告（別表の通り）
一、会役員及び幹事

代表　岸　好人
事務局長　内海　廣重
会計　松田美代子
幹事（順不動）武　繁春、河内輝明、八木幸一、阿部秀利、太田政明、丸山正四郎、松村幸雄、横山隆一、椎名宏子、児玉芳郎、鈴木利博、林　哲也、中島和人、長谷川義孝、飯塚忠志（群馬支部長）、町田恵子、小井戸哲夫、高井昭、波戸場秀幸、市川英夫、伊与久洋子、三枝欣司、梅山久夫、古見満雄、秋山敏子

会計報告

収入		
昭和55年度繰入金	391,595	
昭和56年度会費	506,019	
計	897,614	－①
支出		
会報印刷代（3回分）	194,100	
郵送費	70,240	
例会会場費	32,200	
文具類	5,140	
雑費	15,425	
記念事業特別移出	324,500	
群馬支部送金分	22,000	
計	663,605	－②
差引残高①－②	234,009	
昭和57年度の繰越し	234,009	

以上　会計　松　田　美代子　印

十周年記念事業が終って

守る会結成十周年記念事業として企画した「尾瀬今昔」写真展は、当初開催が、無理とされていたが、会員各位の努力と、群馬支部の協力により、開催出来た。

去る、十一月十二日(木)より十七日(火)まで、高崎、高島屋6階催事場において、全紙白黒写真百点余の明治時代から現在までの、時代変化の写真を展示した。尾瀬に関係している人々の作品（絵画、短歌、写真、切り絵等）を賛助作品として、出品していただき、展示した。期間中、県内のマスコミが、報道した結果、総入場者数は三千九百余名。

尾瀬自然保護指導員が、毎日、写真解説して、自然保護を、うったえた。

一方、写真展期間中の十三日(金)、午後六時より、「尾瀬のタベ」を、高崎市労使会館において、開催した。当日は、県内各地より、多数入場した。

貴重体験のお話しの中に、自然保護の重要性を強調しておられた、丹沢ホームの中村芳男先生の講演と、内藤實先生の映画二本上映した。

守る会発足して、始めての文化的記念事業は、今後の会としての「礎」となるでしょう。記念事業に協力した会員、群馬支部に感謝する。

梅山久夫

会、結成10周年記念写真展を終えて、特に感じたことは、会場が高崎だったこともあるが、参加、会場を訪ずれた人のほとんどが群馬県内の方々であった。特に会場に詰めてもらった人の中には、会社を休んでまで参加してくれた人が何人もいたのは事実である。それなのに県外の人はどうであろうか、13日の総会・尾瀬の夕べには、他の日に比して県外の参加者が多かったが、それでも幹事の人をのぞけば少数だったようである。写真展は一日だけではなく、1週間行なわれたのであるから、時間の都合さえつければ、何とか参加できたのではなかろうか。会は部の幹事の人達だけで成り立っているのではなく、会員全員で成り立っているはずである。会員皆様の自確と、奮起をお願いする。

KS

奥鬼怒スーパー林道阻止にむけて

去る十一月二十日、鯨岡前環境庁長官は記者会見の席上奥鬼怒スーパー林道に関して「林道としての建設を認める」旨、発言された。これに対し当会は直ちに「林道としての建設」にも反対の立場を明らかにすると共に十一月二十一日、群馬支部が関係四団体と共に県知事に質問状を手渡し、又、東京では十一月二十四日環境庁に前長官を訪ね、日光の自然を守る会と連名による抗議文を手渡し、反対陳情を行なった。前長官は辞任を数日後に控え切迫した情勢の中で「実質的な自然保護の為には林道、即ち林業目的及び治山の為の道路として建設した方が良い」「観光目的に使用するなら国立公園内は通させない」等々と述べられた。

しかし、一度林道が開通すれば、なし崩し的に観光目的に利用されることは明らかであり、又、林道そのものが貴重な生態系を破壊し、洪水や山崩れなどの災害を引き起こす。このことは過去に建設された多くのスーパー林道が証明しており、地元町村にも伐採による水害を心配する声が多い。林野庁や森林開発公団は小手先の改良工法を主張しているが、それで解決できる問題ではない。

あとは野ならず山ならず

前長官の発言の背景には、環境庁の後ろ向きの姿勢がありありと見えている。それを見透かしたかのように群馬県や建設促進派の代表者は一様に「林道のみの建設は残念である」としたり顔で述べ、逆に地元の促進派は小踊りして喜こんでいる。林道がいずれ観光目的に利用されるであろうことは、もはや疑う余地がない。

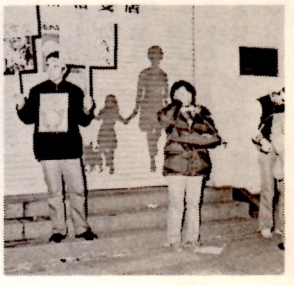
本紙21号でも述べたように観光目的による利用は、地元への利益還元を大巾に減少させ、尾瀬のオーバーユースに拍車をかけ、凍結中の一之瀬～沼山峠間の再開を促すことになる。又、冬期は当然通行不可能であり、林道の維持・管理には膨大な血税を必要とする。行政改革が叫ばれている折、このようなことが許されて良い筈がない。

繰り返して言うが、道さえ造ればあとはどうにかなる、という安直な考えが過去どれ程日本の自然環境を損ない、人々の生活や健康を蝕んできたことか。もう一度真剣に考えて欲しい。

全国各地で反対の声を!!

この奥鬼怒スーパー林道建設を中止させる為、当会は日光の自然を守る会と共に十一月八日夜、東京の渋谷で集会を開き、新宿までデモ行進を行なった。参加者百五十名余。当会としては十年ぶりのデモ行進である。又、同時に新宿駅頭でビラ配りを行ない、続いて十二月十二日、東京・群馬・栃木で一斉に街頭署名活動を始めた。これらの活動はこれからもねばり強く推めていく予定である。

新しく環境庁長官になられた原文兵衛氏には十二月十一日日光の自然を守る会と共に、改めて申し入れを行なった。これらの活動を元にスーパー林道建設断念を引き出すまで頑張りましょう。会員の皆さんの最大限の努力をお願いします。



11月28日のデモ終了後カンパをして下さった方々。小林喜久雄（八王子市）田阪友隆（岡山市）国土修（川崎市）。敬称略：ご協力ありがとうございます。

文責　児玉

§§§§§§§§§§§§§§§

スローガン

○世界的な自然の宝庫、尾瀬や日光を破壊から守りましょう。

○尾瀬や日光の美しい自然を後世に伝えましょう。

○国民の税金を使って作る、不必要な林道に反対しましょう。

入会のおすすめ

「尾瀬の自然を守る会」は日本における自然保護運動の発祥地・原点である尾瀬において、自然保護を考え、学び、行動する〝市民の会〟であります。昭和四十六年八月尾瀬を通る国際観光ルート沼田―田島線建設反対運動の際に発足し、その後幾多の困難を経ながら会員の努力によって、運動は続けられております。

尾瀬を愛する皆さん、小さな力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるように大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも心豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

会の活動　○会報「尾瀬」の発行　○自然観察会　○自然保護指導員養成講座　○その他、自然保護に関する調査研究、講演会など。

入会の方法　○年会費（一月―十二月）二、〇〇〇円を会の会計へ振替でお納め下さい。会の主旨に賛同する方はどなたでも入会できます。

会の会計　〒260　千葉市作草部八六四―五〇三（松田方）
振替・東京6―138023

奥鬼怒スーパー林道は何のために

奥鬼怒スーパー林道問題が再燃し、連日テレビや新聞を賑わしている。

片品村長は、「一応林道として開通させ、移管後に拡幅、舗装をして観光道路にする」と言っているが、林道を何だと思っているのだろうか？

道さえ開けてしまえば後はどうにでもなる、既成事実を作ってしまえばこっちのものだ、という考えには憤りを感じる。

地元林業関係者でさえ「林道としての価値は無い、かえって山を荒すだけだ」と言う人も居る程だ。

其処に、敢えて道を通すという事は、奥鬼怒スーバー林道ではなく、四万―湯ノ小屋―奥鬼怒スカイラインであり、一大観光道路に他ならない。

現在、スーバー林道として建された道路のうち、林道としての役割を果しているのは約半数だけで、残りの半数はほとんど利用されていないと聞く。

何故、貴重な自然を破壊してまで此の様な道を造らなければならないのか理解に苦しむ。

我々人類は、自然の恵みがあってはじめて生きてゆけるのであって、もっと自然に対して謙虚な気持ちで接しなければならない。

自然の恐ろしさが分らぬ愚かなる者達よ！全ての人間が自然の恐ろしさを悟った時、それは、地球が崩壊する時である。（沙門山人2113歳）

博物誌

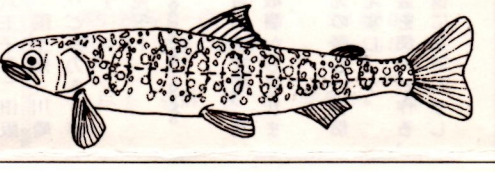
今、尾瀬は一面の銀世界。その雪の下で魚たちは春を待っている。渓流の女王がヤマメならば、イワナは王といったところか。

その食性のすざましさは良く知られているところだ。腹の中からは、蛇・蛙・イモリなど、水辺に近づく動物ならなんでも出てくる。

しかし、雪の下のイワナは、秋に貯えた栄養だけで翌春まですごす。春先のイワナは黒くやせ細り、釣人はサビと呼んでいる。

やがて、エサを求めて渕から瀬へ、水底から水面へと動きだすと、雪のような斑点があらわれてくる。まるで、さびが落ちるように…

by ABE



例会

七月例会報告
十日　於＝東京山手教会
㈠自然観察会の実際　㈡奥鬼怒スーバー林道の現状報告
（出席・内海・岸・阿部・松田・伊藤・武・河内）

九月例会報告
四日　於＝東京山手教会
㈠奥鬼怒スーバー林道・夏の間の動き　㈡写真展・十一月十四日から・於＝高崎高島屋デパート　㈢昭和58年群馬あかぎ国体における笠ヶ岳道路について　㈣事務連絡
（出席・松井　太田　阿部　林　児玉　伊藤　松田　大金　武　中島　千賀　内海　河内）

十月例会報告

一月例会案内

一月十日(日)午前十時三十分より、於東京農業大学第一高校生物教室、テーマ＝スライドによる「日光の自然の中から」講師植木方平（日光の自然を守る会副会長）・昭和五十七年度活動へむけて・正午頃より新年会＝費二千円：多くの会員の出席を希望します。特に指導員の……

二日　於＝山手教会

十一月の例会はお休み致しました。

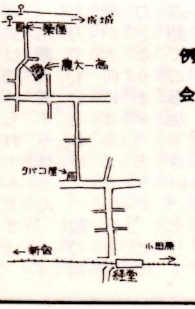
十二月例会報告
四日　於＝東京農大一高
㈠年間計画の作成　㈡例会のあり方について
（出席・内海　児玉　横山　阿部　伊藤　松村　星　松田　長谷川　椎名　河内）

二月例会案内・二月六日(土)

三月例会案内・三月六日(土)

両日とも、於東京農大一高生物教室、午後三時より、テーマ、講師は未定

東京農業大学第一高等学校
生物教室・小田急線経堂駅下車徒歩十五分・渋谷より、成城行きバス農大前下車五分



入会申込書　年　月　日　㊞
1年分会費2,000円を添えて申込みます。
名　前（ふりかな）　男　女
現住所
〒（　）
自宅電話（　）
M S　年　月　日生
勤務先　電話（　）

尾瀬の自然を守る会会報
尾瀬　第二十三号
発行日　昭和五十七年一月
発行者　岸　好人
編集者　河内輝明
事務局　〒156　東京都世田谷区桜三―三三―一　東京農大第一高等学校生物教室内